

【別表】専攻別学科目の代表教員及び指導内容

専攻別の研究内容は本学ホームページをご覧ください。

(<https://www.iwate-med.ac.jp/research/daigakuin/dent/kouza-bunya/>)

専攻別学科目名・ 代表教員名	指 導 内 容
<p>口 腔 解 剖 学</p> <p>藤 原 尚 樹</p> <p>TEL 019 - 651 - 5111 (内線 5840)</p> <p>e-mail naokif@iwate - med. ac. jp</p>	<p>歯胚を用いた実験発生学のツールとなるTrowell法、歯根形成開始期からセメント質形成までの観察に特化したオリジナル器官培養法、組織培養法、細胞培養法に関する手技と形態学的解析法（組織化学的、電子顕微鏡を用いた微細構造学的な解析）について指導する。これらを通じて形態的变化を読み解く力や形態と機能の関連性を考察できる力の獲得、生体现象を実験発生学的に得られた結果から多視点・論理的に理解できる力の獲得、文献検索法ならびに文献内容を自らの研究フィールドに応用できる対応力の獲得などを目標に指導を行う。</p>
<p>口 腔 組 織 学</p> <p>原 田 英 光</p> <p>TEL 019 - 651 - 5111 (内線 5881)</p> <p>e-mail hideha@iwate - med. ac. jp</p>	<p>組織培養、細胞培養、特にiPS細胞に関する研究技法を指導する。分子生物学及び免疫組織化学的手法を用いたイメージング技術とその応用法を指導する。また、遺伝子組換えマウスを用いた発生メカニズムの解析方法と組織工学的技術の修得を目標とし、再生医学研究へ展開できるようにする。様々な実験データや情報を統合して、理論的な結論へと導ける思考力を育成し、臨床における疾患の病因を考察する能力を高める。</p>
<p>口 腔 生 理 学</p> <p>黒 瀬 雅 之</p> <p>TEL 019 - 651 - 5111 (内線 5692)</p> <p>e-mail kurose@iwate - med. ac. jp</p>	<p>電気生理学的手法、免疫組織化学染色法、遺伝子改変マウスの行動解析、情報工学的手法などを併用して行う。生体において感知情報が、運動機能や高次機能の発現にどのような役割を果たすか、また病態時においてどのように影響を受けるかを理解できるよう指導する。講義や実習では、一方向で行うのではなく、ディスカッションの時間を積極的に導入する。</p>
<p>口 腔 生 化 学</p> <p>石 崎 明</p> <p>TEL 019 - 651 - 5111 (内線 5740)</p> <p>e-mail aishisa@iwate - med. ac. jp</p>	<p>間葉系組織由来細胞や上皮系組織由来細胞としての幹細胞や腫瘍細胞の増殖・分化を制御する分子メカニズムを解明することにより、新たな歯科医療の開発を目的とした研究を展開する。この目的を達成するために、生化学的手法、細胞生物学的手法、並びに分子生物学的手法などの実験指導をする。また、研究に必要な情報を得るためのバイオインフォマティクス(生物情報科学)についても指導する。</p> <p>その結果、大学院修了時には、各自が独立して研究を発案・遂行できる力を身に付けられるようになる。また、大学院修了後も、臨床や基礎の現場で最先端の歯科研究に興味を持ち、独自の研究を続けていけるように、継続的な指導をして行く。</p>

専攻別学科目名・ 代表教員名	指 導 内 容
口 腔 病 理 学 入 江 太 朗 TEL 019 - 651 - 5111 (内線 5900) e-mail tarou@iwate - med. ac. jp	<p>遺伝子改変マウスの作製、遺伝子改変マウスを用いた時期・組織特異的遺伝子発現調節による腫瘍初期組織発生のイメージング、超微細構造学的解析、細胞培養法、分子細胞生物学的手法、オミクス解析と生物情報学的解析などを併用した研究指導を行う。生物情報学的解析により得られたデータについては分子細胞生物学的な機能解析と合わせて、実際のヒトの外科病理検体を用いた検証を行う。その際に必要な病理組織診断の知識についても理解させ、臨床や基礎の現場で病理学を活かすことの面白さを理解できることを目標とした指導を行う。</p>
口 腔 微 生 物 学 石 河 太 知 TEL 019 - 651 - 5111 (内線 5803) e-mail tishikaw@iwate - med. ac. jp	<p>細菌が産生する生理活性物質や酵素の精製、性状解析を細菌学および生化学的手法で行い、また、それら細菌由来ビルレンス因子の生体への応答性を培養細胞や実験動物を用いて遺伝学的、免疫学的手法および分子生物学的手法といった種々のアプローチ法を駆使して研究指導を行う。その過程において、データのまとめ方、論文執筆、情報収集の方法なども共に考えながら、研究者として続けていけるよう指導する。</p>
歯 科 薬 理 学 中 村 正 帆 TEL 019 - 651 - 5111 (内線 5811) e-mail tadahonk@iwate - med. ac. jp	<p>研究対象とする神経伝達物質および神経細胞が、どのような神経回路を構成し、どのように生体の行動を制御しているのかを解析するのに、行動薬理学、化学遺伝学、光遺伝学の実験方法を用いる。実験では主に遺伝子組み換え動物を用い、生化学的、組織学的、動物実験学の基礎的手法だけでなく、microinjectionなどの手術手技を身につける必要がある。</p> <p>これらの実験方法と共に、先行研究から研究テーマを決定する、データを適切に管理し解析する、抄録を作成し学会で発表する、論文を執筆し投稿する、競争的研究費に申請するなど、研究に必要な能力を習得できるよう、各大学院生に合わせた指導と支援を実施する。</p>
歯 科 理 工 学 武 本 真 治 TEL 019 - 651 - 5111 (内線 5760) e-mail takemoto@iwate - med. ac. jp	<p>機器分析学的評価手法(分光分析、電子顕微鏡観察、材料強度試験)、歯科生体材料調製法(合金調製、有機高分子材料合成、表面分子修飾)、細胞培養試験法、動物実験法、遺伝子分析法などについて、実験・実習を中心に指導するとともに、学術情報の収集の仕方、科学論文の書き方についても指導する。</p>
法歯学・災害口腔医学 熊 谷 章 子 TEL 019 - 651 - 5111 (内線 5684) e-mail kumagaia@iwate - med. ac. jp	<p>当分野は科学的根拠に基づく犯罪捜査への協力、身元不詳者の個人識別、更には災害時対応等を正確に実施するため、基礎・臨床歯科医学を基盤に日本のみならず海外でも通用する成果を生み出すことを理念としている。そのための基本的な科学的実験方法の習得、日々進化するデジタル技術を取り入れた研究の遂行、適切な統計解析を行う知識、それらを解説できる能力を身に着けることで、諸外国の研究者とも交流できる人材を育むことを目標に指導を行う。</p>

専攻別学科目名・ 代表教員名	指 導 内 容
<p>予 防 歯 科 学 (含 高度臨床歯科医 育成コース)</p> <p>岸 光 男</p> <p>TEL 019 - 651 - 5111 (内線 #4521)</p> <p>e-mail mkishi@iwate - med. ac. jp</p>	<p>フィールド研究に参加し、疫学データの収集と分析仮説の設定ならびに統計学的手法による仮説の立証までのプロセスを指導する。</p> <p>口腔微生物叢のバランスを検討できるよう、当大学微生物学講座分子微生物学分野との連携により、口腔常在菌と常在真菌の定量法を指導する。</p> <p>さらに、それら微生物学的手法と同時に臨床的な周術期患者管理の手法を歯科外来、医科病棟における口腔ケアならびにカンファレンス等へ参加させ、周術期口腔管理の課題を抽出、解決できるよう指導する。</p>
<p>歯 周 療 法 学 (含 高度臨床歯科医 育成コース)</p> <p>八 重 柏 隆</p> <p>TEL 019 - 651 - 5111 (内線 #4425)</p> <p>e-mail tyaegasi@iwate-med. ac. jp</p>	<p>研究テーマに応じた最新の分子生物学的研究手法(培養実験、動物実験)、得られたデータの取り扱いを含めた統計解析法、論文の具体的なまとめ方、分かりやすいプレゼンテーション方法等を指導する。</p> <p>臨床では日本歯周病学会指導医のもとで、日本歯周病学会認定医の短期資格取得を主目標に一口腔単位の実践的な歯周治療について指導する。</p>
<p>う 蝕 治 療 学 (含 高度臨床歯科医 育成コース)</p> <p>野 田 守</p> <p>TEL 019 - 651 - 5111 (内線 #4233)</p> <p>e-mail nodam@iwate - med. ac. jp</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究 実験計画立案、実験手技、データ解析、学会発表資料作成及び発表、並びに論文作成を指導する。修了時に自身で研究を計画立案、実践および論文発表が行えることを目標とする。 ● 臨床 <ul style="list-style-type: none"> (1) 指導医のもとで、心疾患患者の周術期口腔管理を体験し、全身状態の把握、リスク管理を考慮して歯科治療計画を立案し実践できる。 (2) 総合歯科外来での診療を通じ、基本的な保存治療が実践できる。
<p>口 腔 外 科 学 (含 高度臨床歯科医 育成コース)</p> <p>山 田 浩 之</p> <p>TEL 019 - 651 - 5111 (内線 #4426)</p> <p>e-mail yamadah@iwate - med. ac. jp</p>	<p>光学顕微鏡、電子顕微鏡の標本作製および観察、免疫組織化学、イメージング技法、分子生物学的手法、Tissue engineering 技術などについて指導する。あわせて、口腔外科の診断学ならびに治療学を教授する。</p>

専攻別学科目名・ 代表教員名	指 導 内 容
<p>冠橋義歯・ 口腔インプラント学 (含 高度臨床歯科医 育成コース)</p> <p>今 一 裕</p> <p>TEL 019 - 613 - 6111 (内線#4441)</p> <p>e-mail kazukon@iwate-med. ac. jp</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1年次から4年次まで継続した臨床の指導を行う。クラウンブリッジ、インプラント、顎顔面補綴、スポーツ歯科、審美歯科、デジタル歯科まで、幅広く補綴関連臨床を学べるような指導体制をとっている。さらなる専門性の深化を目的として、より高度な専門的補綴歯科臨床についても希望に応じて指導する。 上述の課題に関連した研究計画・研究方法の知識と技術、研究成果の口頭発表、学術論文の書き方について指導する。海外での研究成果発表も支援する。 さらに、補綴歯科臨床に直結した研究を目指す視点から、臨床面での診断能力、治療技術の向上と専門医の取得までも指導する。
<p>有床義歯・ 口腔リハビリテーション学 (含 高度臨床歯科医 育成コース)</p> <p>小 林 琢 也</p> <p>TEL 019 - 651 - 5111 (内線 #4418)</p> <p>e-mail kobataku@iwate - med. ac. jp</p>	<p>1年次から4年次まで継続した臨床の指導を行う。</p> <p>高齢者における形態再建(義歯治療)と機能維持の歯科臨床を実践した上で、さらなる専門性の深化を目的として、多職種との連携を密にした高齢者歯科臨床を指導する。</p> <p>臨床現場における疑問を臨床の研究テーマとし、研究計画立案から研究成果の口頭発表、学術論文の書き方まで、研究者としての基本について指導する。</p> <p>大学院修了時には、自身で独立して研究、臨床を行える力を身につけることを目標とする。</p>
<p>歯 科 矯 正 学 (含 高度臨床歯科医 育成コース)</p> <p>佐 藤 和 朗</p> <p>TEL 019 - 651 - 5111 (内線 #4533)</p> <p>e-mail kazsatoh@iwate - med. ac. jp</p>	<p>矯正歯科に係る基礎から応用までの臨床指導を行うと共に、電気生理学的手法(咀嚼筋筋電図法)、下顎運動記録法の手技の修得と解釈に加え、非接触型三次元計測、治療シミュレーション等、広範囲な知識と技能修得の指導を行う。</p>
<p>歯 科 放 射 線 学 (含 高度臨床歯科医育成 コース)</p> <p>田 中 良 一</p> <p>TEL 019 - 651 - 5111 (内線 #4428)</p> <p>e-mail rtanaka@iwate - med. ac. jp</p>	<p>単純エックス線撮影から、核医学、CT、MRI、超音波検査まで総合的な画像診断および解析の手法の指導。ROC解析など、診断精度評価に関連する統計学的手法についても指導する。</p> <p>また、深層学習などを用いた新たな画像解析手法のトレンドの調査、および公開リソースを用いた応用手法を指導する。</p>

専攻別学科目名・ 代表教員名	指 導 内 容
<p>小 児 歯 科 学・ 障 害 者 歯 科 学 (含 高度臨床歯科医 育成コース)</p> <p>熊 谷 美 保</p> <p>TEL 019 - 613 - 6111 (内線 #4230)</p> <p>e-mail mkumagai@iwate - med. ac. jp</p>	<p>[研究] 実験計画、実験方法、データ解析、学会発表および論文作成を指導する。大学院修了時には、自身で研究計画・立案、実験遂行および論文作成が行えることを目標とする。</p> <p>[臨床] 日本小児歯科学会専門医、日本障害者歯科学会認定医の資格取得を目標に実践的な小児歯科治療、障害者（児）歯科治療について指導する。</p>
<p>歯 科 麻 酔 学 (含 高度臨床歯科医 育成コース)</p> <p>佐 藤 健 一</p> <p>TEL019 - 651 - 5111 (内線 #4329)</p> <p>e-mail satoken@iwate - med. ac. jp</p>	<p>電気生理学的手法(Ca²⁺イメージング法、Ca²⁺蛍光強度比測定法など)のほか筋張力同時測定法、および電極法による一酸化窒素(NO)測定法を指導する。生体情報監視装置(脳O₂含量測定、BISモニター、血圧・心電図モニター、呼吸モニターなど)を用いた臨床研究法を指導する。</p> <p>脳活動への麻酔薬の作用に関して脳機能MRIを用いる研究法を指導する。</p>
<p>歯 科 内 科 学</p> <p>千 葉 俊 美</p> <p>TEL 019 - 651 - 5111 (内線 #4435)</p> <p>e-mail toshiba@iwate - med. ac. jp</p>	<p>1. 歯科医療に関わる消化器疾患—嚥下と食道運動機能に関する研究：高解像度食道内圧検査 (High-resolution manometry : HRM) を用いて嚥下機能と食道運動機能の関係を明らかにする。</p> <p>2. 歯周病原菌 <i>P. gingivalis</i> (Pg 菌) と非アルコール性脂肪肝 (NAFLD) および膵臓癌に関する研究：</p> <p>① 口腔—肝の臓器連関による NAFLD 病態形成を標的としたカルノシン酸 (CA) の作用機構の解明に関する研究：Pg 菌を起因とする NAFLD の発症および進展に対する影響及び作用機序について明らかにし、歯周病原菌に対して抗菌作用を有する CA の口腔細菌を起因とする NAFLD の発症および進展に対する影響及び作用機序について検討する。</p> <p>② Pg 菌をターゲットとする膵臓癌早期診断マーカーの開発に関する研究： 口腔細菌と膵臓癌の関連についてメカニズムを明らかにし、Pg 菌をターゲットとする膵臓癌の早期診断マーカーの開発を目的とする。</p>